

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年2月24日 (2011.2.24)

【公表番号】特表2010-514839(P2010-514839A)

【公表日】平成22年5月6日 (2010.5.6)

【年通号数】公開・登録公報2010-018

【出願番号】特願2009-544907(P2009-544907)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 9/51 (2006.01)

A 6 1 K 9/127 (2006.01)

A 6 1 K 31/337 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 7/04 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/10 (2006.01)

A 6 1 K 51/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00 Z N A

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 9/51

A 6 1 K 9/127

A 6 1 K 31/337

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 7/04

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 7/10

A 6 1 K 43/00

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

C 0 7 K 7/06

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月27日 (2010.12.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

**【請求項 1】**

表面分子および複数のクロット結合化合物を含む結合体であって、該クロット結合化合物が凝固した血漿タンパク質に選択的に結合し、該結合体が凝固を引き起こし、そして腫瘍における該結合体の蓄積を増幅し、ここで該結合体が、凝固を引き起こし、そして腫瘍における該結合体の蓄積を増幅するように、十分な数、密度および組成のクロット結合化合物を含み、該クロット結合化合物の数、密度および組成の十分性が、好ましくは、非ヒト動物中の腫瘍における凝固および前記結合体の蓄積の増幅を評価することにより決定される、結合体。

**【請求項 2】**

複数の前記クロット結合化合物が、各々独立して、アミノ酸配列 R E K を含むアミノ酸セグメント、フィブリン結合ペプチド、クロット結合抗体、およびクロット結合小有機分子から選択される、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 3】**

複数の前記クロット結合化合物が、各々独立して、アミノ酸配列 R E K を含むアミノ酸セグメントを含み、ここで該アミノ酸セグメントが、各々独立して、アミノ酸配列 C R E K A (配列番号 1) を含むアミノ酸セグメントまたはその保存的改変体、アミノ酸配列 C R E K A (配列番号 1) を含むアミノ酸セグメント、アミノ酸配列 C R E K A (配列番号 1) からなるアミノ酸セグメント、およびアミノ酸配列 R E K からなるアミノ酸セグメントから選択される、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 4】**

前記アミノ酸セグメントが、各々独立して、アミノ酸配列 C R E K A (配列番号 1) を含むアミノ酸セグメントまたはその保存的改変体を含むか、あるいはアミノ酸配列 C R E K A (配列番号 1) または R E K からなる、請求項 3 に記載の結合体。

**【請求項 5】**

複数の前記クロット結合化合物が各々、フィブリン結合ペプチドを含み、ここで該フィブリン結合ペプチドが独立して、好ましくはフィブリン結合ペプチド、およびそのフィブリン結合誘導体からなる群から選択される、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 6】**

複数の前記クロット結合化合物が各々、クロット結合抗体またはクロット結合小有機分子を含む、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 7】**

前記表面分子が、ナノ粒子、酸化鉄ナノ粒子またはアルブミンナノ粒子であるか、あるいは前記表面分子が、リボソーム、マイクロ粒子またはフルオロカーボンマイクロバブルを含む、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 8】**

前記結合体が、少なくとも 100 のクロット結合化合物、少なくとも 1000 のクロット結合化合物、または少なくとも 10,000 のクロット結合化合物を含む、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 9】**

前記表面分子が、検出可能であり、及び / 又は前記表面分子が、治療剤であって、ここで該治療剤が、A b r a x a n e である、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 10】**

前記結合体が、1 つ以上の成分をさらに含み、該成分が、好ましくは、抗 - 血管新生剤、プロ - 血管新生剤、癌化学療法剤、細胞障害剤、抗炎症剤、抗関節炎剤、ポリペプチド、核酸分子、小分子、フルオロフォア、フルオレセイン、ローダミン、放射性核種、インジウム - 111、テクネチウム - 99、カーボン - 11、およびカーボン - 13 からなる群から独立して選択され、該成分の少なくとも 1 つが、好ましくは、治療剤である、請求項 1 に記載の結合体。

**【請求項 11】**

前記治療剤が、パクリタキセル、および / またはタキソールであり、そして / あるいは

前記少なくとも１つの成分が、検出可能な作用物質である、請求項１０に記載の結合体。

【請求項１２】

前記結合体が、凝固した血漿タンパク質に選択的にホーミングし、そして／あるいは前記結合体が、腫瘍脈管構造、創傷部位、または両方に選択的にホーミングする、請求項１に記載の結合体。

【請求項１３】

腫瘍の治療のための医薬の調製のための請求項１に記載の結合体の使用であって、該結合体が凝固した血漿タンパク質に選択的にホーミングし、該結合体が凝固を引き起こし、そして該凝固した血漿タンパク質の部位で該結合体の蓄積を増幅し、該結合体が、好ましくは、腫瘍脈管構造、創傷部位、または両方に選択的にホーミングする、使用。

【請求項１４】

前記結合体が、治療効果を有し、該治療効果が、好ましくは、腫瘍負荷の増加の減速または腫瘍負荷の減少であり、そして／あるいは該治療効果が、好ましくは、腫瘍サイズの増加の減速または腫瘍サイズの減少であり、そして／あるいは該治療効果が、好ましくは、腫瘍における血液循環の減少または阻止であり、そして／あるいは該治療効果が、好ましくは、創傷部位における出血の減少または停止であり、そして／あるいは該治療効果が、好ましくは、前記治療効果が、創傷部位における出血が停止する時間における減少であり、そして／あるいは該治療効果が、好ましくは、炎症における減少、創傷治癒における速度の増加、瘢痕組織の量における減少、痛みにおける減少、腫れにおける減少、壊死における減少またはこれらの組み合わせである、請求項１３に記載の使用。

【請求項１５】

前記凝固が、治療効果を有する、請求項１３または１４に記載の方法。